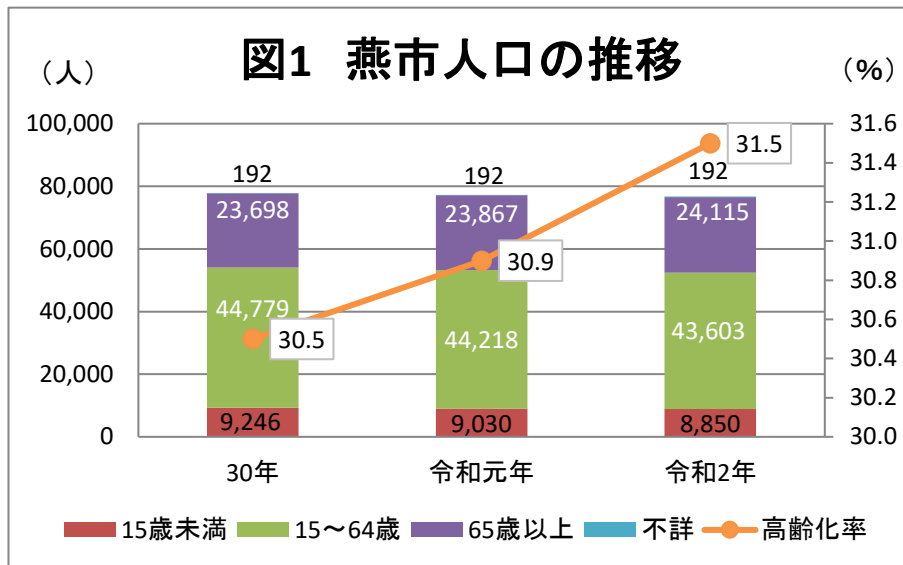


燕市の健康を取りまく概況

健康づくり課

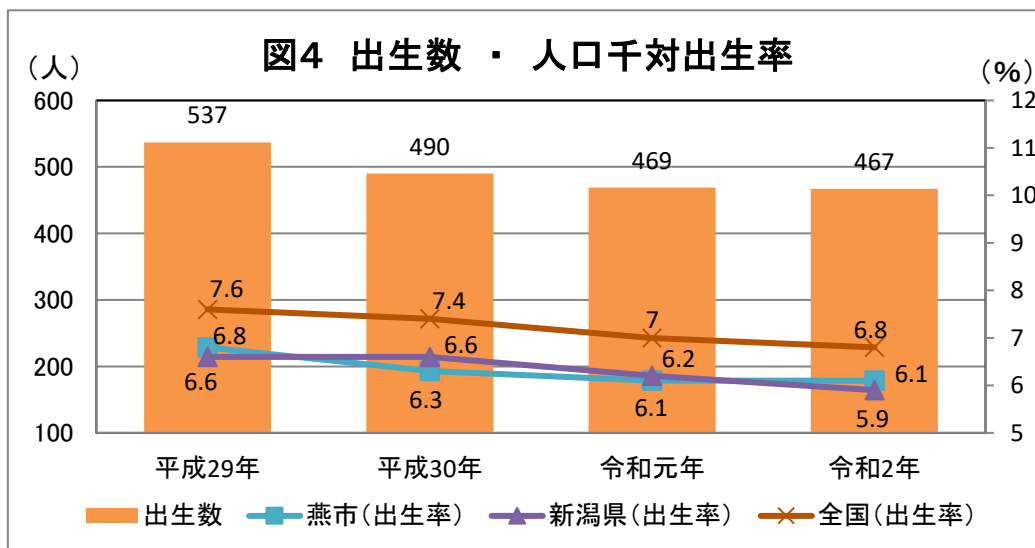
(1)人口構成（第3次燕市健康増進計画 P7 図1比較）



資料:新潟県「新潟県推計人口」

総人口は年々減少しており、燕市の総人口は76,760人となっている。特に15歳未満の人口は、計画作成時の平成27年の9,885人から令和2年は8,850人と1,000人以上減少しており、高齢化率は上昇の一途をたどっている。

(2)出生（第3次燕市健康増進計画 P9 図4比較）

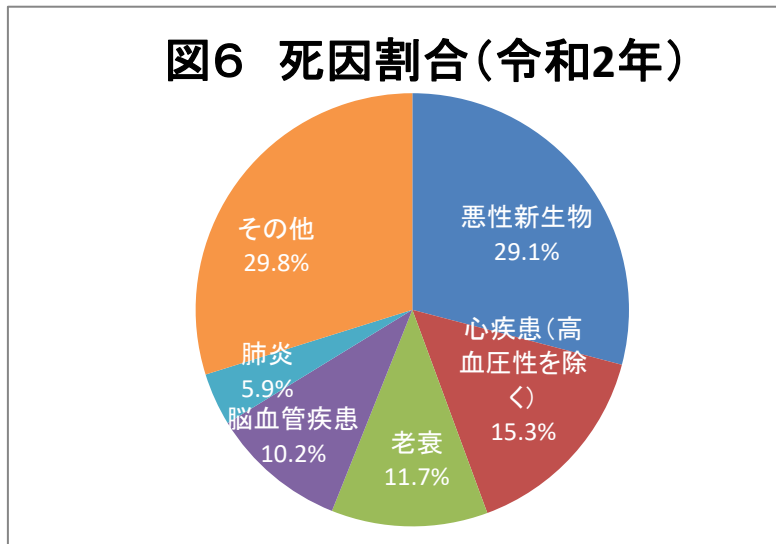


資料:新潟県「母子保健の現況」

出生数は、年々減少しており、平成30年度以降は500人を下回っている。

出生率は県より上回ることもあるが、全体的に減少傾向にある。

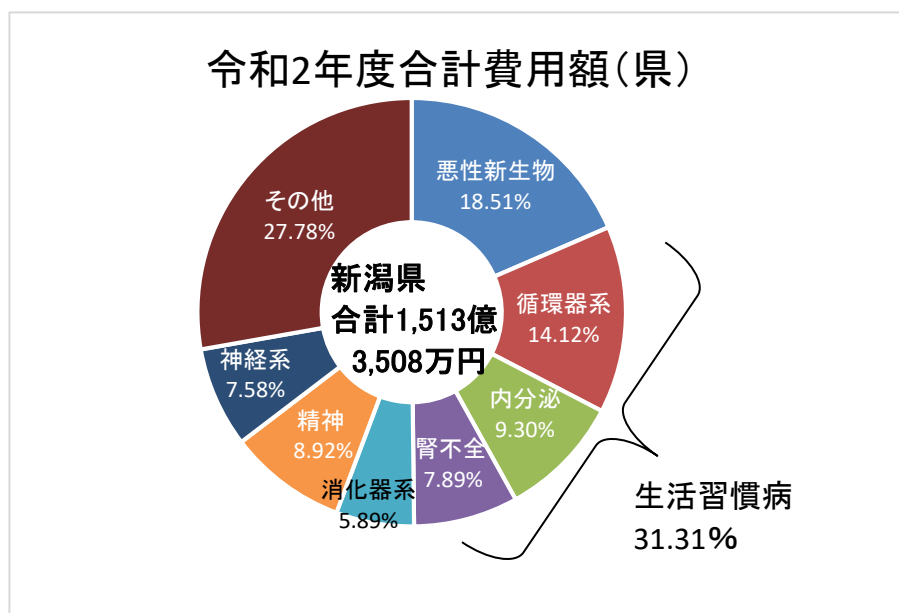
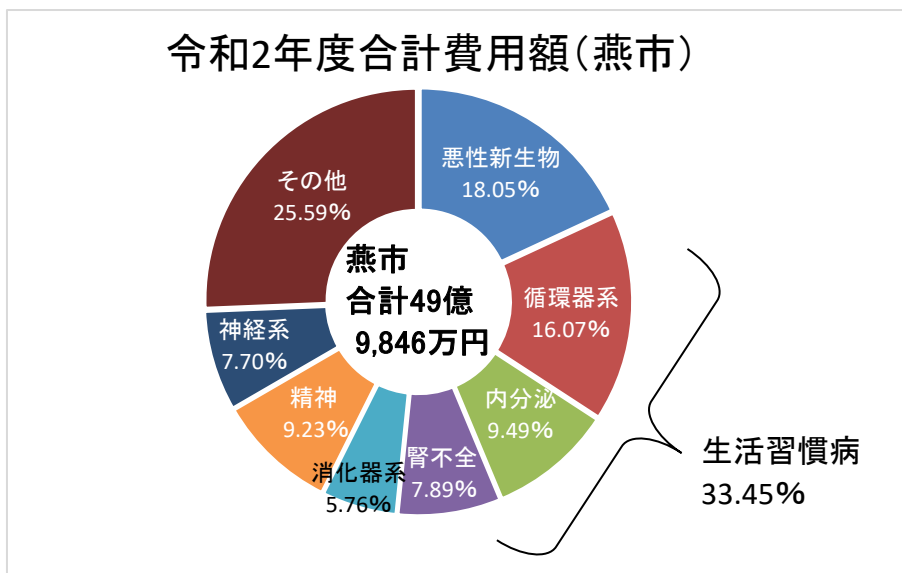
(3)主要死因（第3次燕市健康増進計画 P10 図6比較）



資料:新潟県「福祉保健年報」

燕市の主要死因の順位は、計画作成時の平成27年と同様の第1位悪性新生物、第2位心疾患、第3位脳血管疾患、第4位老衰、第5位肺炎となっている。

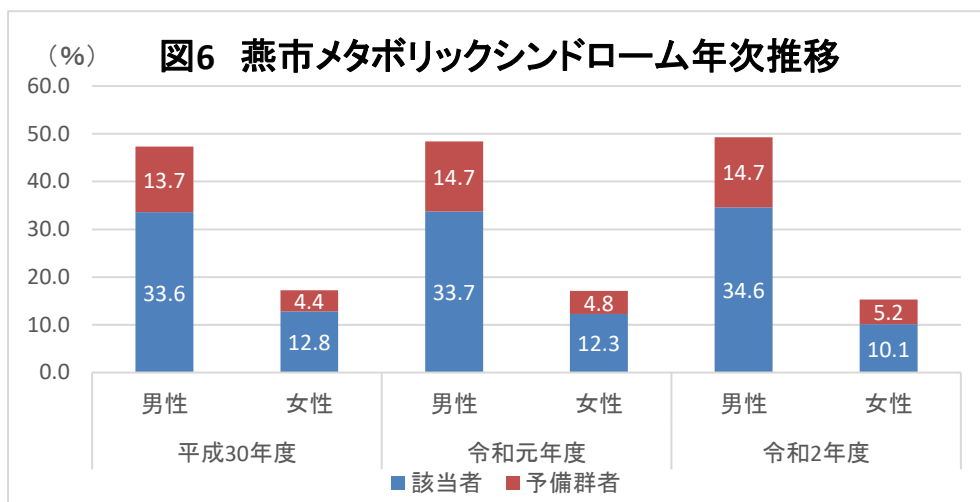
(4) 国民健康保険医療費の状況（第3次燕市健康増進計画 P14 図12比較）



資料:KDBデータを使った疾病分類別(大・中分類)統計(国保)

計画策定時の平成27年度とは、費用の集計方法が異なるため、単純比較はできないが、令和2年度について県と比較すると、主な生活習慣病である「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝」「腎不全」が燕市では33.45%を占めており、県の31.31%を依然上回っている。

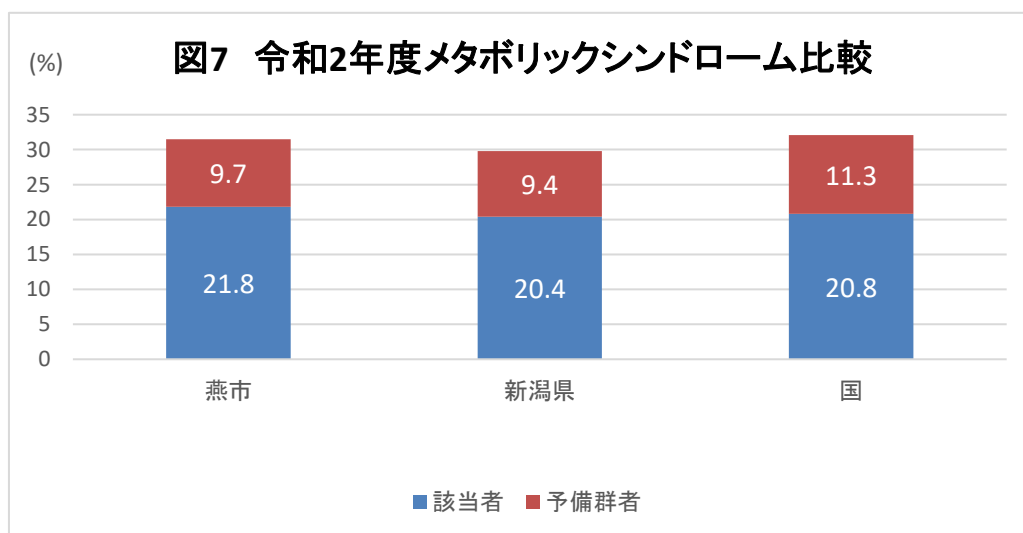
(5)メタボリックシンドローム年次推移（第3次燕市健康増進計画 P20 図19・図20比較）



資料：特定健診・特定保健指導実施結果総括表（法定報告）

女性のメタボリックシンドローム総数および該当者は減少傾向であるが、予備軍該当者は増加傾向である。
男性においても、メタボリックシンドローム総数および該当者は増加傾向にある。

(6)メタボリックシンドローム比較（第3次燕市健康増進計画 P36図60・図61参考）



資料：法定報告より算出（燕市）
厚労省HP「特定健康診査・特定保健指導に関するデータ」（県・国）

平成27年度から継続して、県・国よりも高い状況は変わらない。
メタボリックシンドローム該当者を減少させるために、市民自ら生活改善に取り組めるよう、今後も支援を継続していく必要がある。